



# しずおか愛護

## No.34 (平成 30 年 12 月 17 日発行)

静岡県知的障害者福祉協会・広報 発行



### = 卷 頭 言 =

障害者支援施設部会の部会長に選任され、副会長の大役を仰せつかって2期3年目となりました。この間、力不足のため各方面にご迷惑をおかけしつつも大変貴重な経験をさせていただき感謝しています。

協会の委員会活動においては、事業委員会を担当していますが、この事業委員会には、スポーツ・文化・人材養成の3つの専門委員会があり、組織上はそれらを統括する立場となっています。とは言うものの、個々の専門委員会は、理事の方がそれぞれ担当してくれており、その担当理事と協会事務局が尽力して委員会活動を支えてくれています。

この専門委員会において、スポーツは「静岡オレンジマラソン大会」、文化は「愛護ギャラリー展」、人材養成は「職員研修所講座」の企画・開催・運営を担っています。いずれも長年継続して実施している事業ですが、時の流れの中で若干おもむきが変わってきている感があります。度重なる制度改正による事業所等における活動状況の変化、さらに利用者の皆さんの高齢化等が影響し、参加者やニーズ、事業を支えて下さっているスタッフの状況等にも変化が見られている現実があります。今年度各事業終了後、担当理事の方々にそれぞれの事業の評価と、さらに来年度に向けて実施方針等を検討していただくことになっています。いずれも協会50有余年の歴史の中で必要とされて立ち上げ、連綿と継続し培われてきた事業ではありますが、伝統は踏襲しつつも、現在の状況やニーズに応じた企画となるよう前向きに整理していきたいと考えています。その過程において、会員事業所のスタッフの力をお借りしなければならない場面が少なからずあるかと思しますので、その際にはぜひご協力よろしく願いいたします。

さて、平成30年度は、報酬改定で幕を開けました。この報酬改定で今後の主な検討課題として、次期報酬改定に向けた13項目が示されており、通例であれば報酬改定年度のみ開催されていた国の報酬改定検討チームが常設化され、3年後に向け、早々に8月より会議が開催されています。示された検討課題について各種調査・研究が行われるなど、スケジュール案を見ると、今年度中にも支援に関する実態調査が実施されるサービスがあります。サービスの質を報酬体系に反映させる手法を検討するとされていますが、どのようなエビデンスに基づきサービスの質が評価され、評価基準が出来るのか今後目が離せない動きになります。



静岡県知的障害者福祉協会  
副会長 天良昭彦  
(駿豆学園)

## 第10回児童虐待防止 静岡の集い

児童発達担当理事 江森 静子

第10回児童虐待防止静岡の集いが、平成30年11月10日に静岡県総合福祉会館で開催されました。

第一部では、子ども虐待防止センター理事・相談員の広岡 智子氏による「**地域の見守り支援が防ぐ『子ども虐待』**」と題した講演が行われました。

虐待の多くは、世代間連鎖が考えられ、親自身も被虐の体験があり得ます。認められ大事にされた実感が乏しいまま大人となり、そして自分が親になった時、子どもへの接し方がわからず、結果的には自分が受けてきた暴力を子どもに向けてしまう悪循環に陥ってしまいます。この連鎖を断ち切るには、「**たった一人でもいい！子どもが親以外の大人に出会うこと**」「**親自身が安心してネガティブな子どもへの気持ちを語り、理解してもらえる人に出会うこと**」がとても重要であり、それが連鎖を崩す糸口になると熱く語られたのが心に響きました。まさに身近にいる私たちが声をかける、理解するなどの関わり合いの支援が大事であると思いました。



第二部は、青空のもと紅葉が映える沿道を「児童虐待を無くそう！」「子どもの未来を守ろう！」と元気なかけ声とともに、啓発パレード行いました。

県庁では、同時開催した「静岡県子ども虐待防止オレンジリボンたすきリレー4th」のゴールを皆で迎えました。

増え続ける虐待の歯止めは、多くの方に関心を持ってもらい、地域の身近なところで、さまざまな子育ての支援が拡がることの重要性を改めて強く意識した集いでした。



## 第 32 回静岡オレンジマラソン大会を終えて

スポーツ担当理事 降矢 章治

平成 30 年 11 月 10 日（土）に「第 32 回静岡オレンジマラソン大会」が行われました。

今年は晴れました。3 年連続雨でしたが、やっと晴れました。これ以上ないという位の秋空のもとで静岡オレンジマラソン大会を行うことが出来ました。

今大会も、5 歳から 64 歳の方まで 148 名の幅広い層の選手がエントリーされました。

受付では、選手の皆様から笑顔で「今年は晴れたね!」と、この大会を楽しみにして頂いていることを実感しました。昨年まで 3 年連続雨の静岡オレンジマラソン大会だったので、大会実行委員、協力員も晴れ

での大会経験者がほとんど居ませんでした。各種別の班長が中心となり準備打合せ、シミュレーションを行い、スタッフをまとめてくれたのでスムーズに大会を進行することが出来ました。

選手の皆さんが、一生懸命にゴールを目指す姿は輝かしいもので、今年も感動しました。一生懸命というものは、人の心を動かすものだと実感します。スポーツの魅力は、なんと言ってもプレイしている者以外にも広く影響を与えることだと思っています。選手の皆さんが、マラソンを通し心と身体を鍛え

るとともに、人を感動させられるような存在に成長してくれる事を期待します。

午後は 4 年ぶりの「ふれあいダンス」、選手や来賓の皆さん、ボランティア、実行委員、協力員一緒にダンスを行い、草薙陸上競技場は笑顔で溢れていました。

大会の開催にあたり、多くのご来賓の皆様、ボランティアの皆様、各事業所の実行委員、協力委員のご尽力、ご協力のお陰を持ちまして無事に大会を終えることが出来ました。ご協力頂いた全ての皆様に心より感謝申し上げます。

第 33 回大会も出来るだけ多くの皆様に参加をして頂き、大会を盛り上げていきたいと思っておりますので、選手、実行委員、協力員の皆様のご参加を心よりお待ちしております。



## 平成 30 年度 静岡県知的障害者福祉協会

## 防災・危機管理委員会報告

## 《台風 24 号の被害に関する調査を経て》

防災・危機管理担当 袴田章彦

2018 年は、特に自然災害が目立った年だった気がします。地震や台風、豪雨や酷暑、今後起こるだろうインフルエンザや風疹の流行も自然災害と言ってもいいかも知れません。札幌で、大学の同級生夫婦が、それぞれ某法人の相談支援専門員をしています。9 月 6 日に発生した北海道胆振東部地震による被災生活では、停電が復旧した後になって、事業所に通う障害を持つ子どもたちに心身が不安定になる状態が見られたとの話を聞きました。その時は「あー、そうなんだ」と“対岸の火事”のような気持ちでメールをしたことを覚えています。そんな思いが完全に消えない中の 9 月 30 日の夜中、台風 24 号による停電が発生しました。四季の郷では、幸いにも建物の被害はありませんでしたが、停電復旧まで 2 日半を要しました。

北海道地震の被災生活に比べれば、たった 2 日半の停電生活に過ぎなかったかも知れませんが、停電による断水の状況や、その中で利用者支援を行っていく体験は初めてのことで、想像以上の苦労がありました。職員の皆さんには、本当に良く対応してくれたと感謝していますし、いい体験をさせてもらったと今は感じています。

(お恥ずかしい話ですが) 自分の勤めている施設が、停電復旧した直後に、「周りの施設や事業所はどんな状況なんだろう？」とふと思い立ちました。このことが、今回居住系施設・事業所をお願いをした調査実施のきっかけです。大変お忙しい中、面倒な調査をお願いしてしまい、協力をしてくださった皆さんに感謝申し上げます。

調査は、具体的には『停電・断水を中心にした被害状況の把握』と『人・物・訓練やマニュアルなどの今の災害対策の有効性の把握』の 2 つがポイントでした。

まず、『停電・断水を中心にした被害状況の把握』については、静岡県西部地区の被害が多かったという結果でした。回答の中では、停電・断水の期間は最大 3 日間でした。また、回答をいただいた施設・事業所の中の約 3 割で、停電・断水の両方が発生していました。断水のみのは発生は見られなかったので、断水した施設・事業所は、停電が原因であったと推察できました。停電復旧について、電力会社では、“都市部と山間部に大きく分けて、人口が多い都市部を優先して復旧工事を行った”とか、“電話で問い合わせ(クレーム?)をした順であった”とか、“福祉施設があることをあらかじめ伝えておけばもっと早く復旧した”等の話を聞きましたが、実際のところは良く分かりません。

次に『人・物・マニュアルなどの災害対策の有効性の把握』についてですが、『職員の確保』については、すべての回答施設・事業所でほぼ勤務表通りに行えたようです。ただ、信号も消えてしまった影響か、道路の大渋滞により大遅刻になってしまった職員も見られたとのことです。『物』については、



照明機器や乾電池、発電機燃料の数量的な不足が多く、施設・事業所で聞かれました。四季の郷でも、停電発生翌日に単一乾電池の購入をしようとしたところ、半日近く市内の店を回るはめになりました。最後に、『災害訓練や災害マニュアル等』については、普段の訓練がとても役に立ったという報告がある一方、非常食が置いてある場所さえわからなかったとの報告もありました。

また、“あったら良かった物”としては、「発電機」と回答した施設・事業所がとても多く見られました。「発電機」と言っても、照明機器や一部の家電を動

かせる程度の家庭用発電機と、それなりの機器や設備を動作させることができる発電機（むしろ発電設備）がありますが、設問の仕方が悪かったため、どちらを指した回答なのか詳細はつかめませんでした。四季の郷では、カセットコンロ用のカセットボンベ2本で、約2時間発電できる発電機がとても重宝しました。本体価格は、10万円ほどであったと思います。ただ、“実際に困るのは、入れる（飲食）の方ではなく、出す（排泄）の方である”と過去の地震被災者の話で聞いたことがあります。排泄の後始末で使える水の確保と、排泄物の処理に関わる汚水の処理設備や、水道の供給ポンプを動かせるような高出力の発電機（発電設備）があったら良かったと思っています。実際、そのような回答をした施設・事業所も複数ありました。ただ、値段はかなりの額になると思われます。調査につきましては、集計や分析が不十分で申し訳ありませんが、今後の災害対策の参考にさせていただければと思っています。

ところで、静岡県知的障害者福祉協会には、『災害時の相互応援運営要綱』というものがあります。被災時の会員施設・事業所同士の“応援”のための連絡方法や、段取り等についてまとめられています。今回の停電体験の振り返りと、『災害時の相互応援運営要綱』の再確認を元に、先日、県知協の危機管理・人権擁護委員会担当理事で、災害対策（特に被災後の対策）の方向性について話し合いを行いました。議論のポイントは、より实际的に考えて、①県知協として何ができるのか？②会員相互の“応援”が機能するにはどのような体制が必要か？③有効な情報伝達の方法は何か？…でした。今回の話し合いでは、なかなか意見をまとめることができませんでした。今後、会議や研修会を通して委員会での意見を皆さんに投げ掛けていくということになりました。ここからは私の個人的な意見ですが、「特に被災直後からいわゆる急性期への災害対策は、各施設・事業所（その運営法人）で行わざるを得ない」という前提から、県知協として、その個々の対策がより“強いもの”になるような情報提供や研修会の実施など、何らかのお手伝いできないか？ということと、『災害時の相互応援運営要綱』にあるような急性期を脱した後の会員相互の“応援”ができる体制づくりを再検討してはどうか？…と思っています。今回の調査では、停電が発生した後、約半数の施設・事業所で電話の不通や、パソコンの使用ができないという状態が見られたようです。また、電話をしても通じないので、（他市でもあったが）実際にその施設に出掛けて状況の確認をしたという体験談も聞きました。また、東・中・西の地域別に加え、地域を横断的にグループ分けし、被災時にはそのグループの中で“応援”し合うという提案もありました。

どんな対策をしても、想定を変えれば対策の度合いが異なってきます。今後、日本の気候の亜熱帯化が進むと言われている中で、今回の台風24号のような勢力が今後は当たり前になるかも知れません。その意味で、1つの想定となり得る体験を今回できたことは、とても有益であったと思います。この停電や断水が何ヶ月間というレベルで起きたら…、という単なる空想ではない、より現実的な被災生活の状態のイメージを浮かべる契機にもなったと思います。是非、“災い転じて福と成す”ことを目指していきたいと思っています。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

## 平成30年度職員研修所講座実施報告

人材養成担当理事 山田 宗克

平成30年度、本協会主催の職員研修所講座を6月から11月にかけて5講座（各講座3日間開講）で実施しました。講座並びに講師の先生方は以下のとおりです。

講座名	講師名	備考
心理学療法講座	福永博文先生	浜松学院大学短期大学部名誉教授 専門行動療法士 臨床心理士
音楽療法講座	野田奈津代先生	音楽処ベルの木主宰 音楽療法士 ヴォイストレーナー
障がい者スポーツ講座	大塚康夫先生	公認 上級障害者スポーツ指導員
カウンセリング講座	杉本好行先生	元常葉大学 教育学部・心理教育学科 教授・学科長 臨床心理士
医療・看護講座	山倉慎二先生	重症心身障害児施設つばさ静岡施設長・医師

今年度も、開講時期が短期間に集中しないよう期間を6月から11月にかけて実施しました。期間を長く設定した関係で、講座によっては間が開き過ぎた印象を持たれた方もいました。

講座会場は、「シズウェル」「あざれあ」「もくせい会館」を利用しました。また、障がい者スポーツ講座の3日目は、オレンジマラソン大会（会場：静岡県草薙総合運動場）の運営に携わることで実地研修として開講しました。

受講者数は、講座合わせて146名となりました。講座別の受講者数は下の表の通りです。

#### 【受講者数】

	心理	絵画	音楽	スポーツ	カウンセリング	医療・看護	総数
平成27年度	36	21	25	14	36	33	165
平成28年度	43	24	27	22	42	40	198
平成29年度	33	23	22	16	28	47	169
平成30年度	45	休止	16	13	28	44	146

講座終了時、受講者に行ったアンケートによる満足度並びに理解度は以下のとおりです。

#### 【内容満足度】

講座の内容に「大変満足した」又は「満足した」と回答した方。

心理学療法講座（98%）、音楽療法講座（100%）、障がい者スポーツ講座（100%）、カウンセリング講座（96%）、医療・看護講座（95%）

#### 【内容理解度】

講座の内容を「理解できた」又は「ほぼ理解できた」と回答した方。

心理学療法講座（85%）、音楽療法講座（100%）、障がい者スポーツ講座（100%）、カウンセリング講座（100%）、医療・看護講座（100%）

\*各講座、満足度・理解度ともに高い回答となりました。

研修所講座全般についての期間と、今後身につけたい知識については以下のとおりです。

#### 【研修期間】

長すぎる（8%）、ちょうど良い（70%）、短すぎる（5%）、内容によって変えてもいい（17%）

#### 【今後身につけたい知識】

コミュニケーションや利用者支援（42%）、余暇・レクリエーション（27%）、職員の健康管理メンタルヘルス（14%）、実務的な技能（8.3%）、接遇・マナー（3.8%）その他（5%）

\*講座参加者としては期間についてちょうど良いと答える方が多かったようですが、参加をさせる側としては3日間一人の職員をあてる難しさもあり、参加する側との意識の違いも感じられました。又、今後身につけたい知識では、「コミュニケーションや利用者支援」と答える方が多い傾向ですが、参加している講座の内容によって、「職員の健康管理やメンタルヘルス」が多い場合と「余暇・レクリエーション」が多い場合があります。昨今の働く環境によるものなのか、予想以上に「メンタルヘルス」への関心が高いことが意外でした。

平成30年度研修所講座受講修了者は以下の皆さんです。（順不同・敬称略）

#### 【心理学療法講座】

静岡県立富士見学園	石原孝徳	あさぎり	原 弘美
鷹身工芸社	宇佐美真紀	静岡市清水うなばら学園	平野名加世
鷹身工芸社	富山正代	まつぼっくり	山中佳代子
ワークスつばさ	大橋利佳	虹の家	杉本彩央里
駿東学園	横山高博	富士市立くすの木学園	大村史香
はまおか作業所	杉田秀夫	みはらしの丘	鈴木圭織
望未園	望月久美子	望未園	小松原志保

あまぎ学園	内田瑞穂	富士本学園	上田竜也
ひめな	八木あすか	沼津市立あしたか学園	柴山仁美
コミュニティ浮島	杉山幸子	伊豆つくし学園	外岡愛美
オランチ	伊藤真紀	袋井学園	鵜飼美帆
竹の子	山本富士美	吉原つくし	永田知恵
竹の子	小林典子	あきは寮	内田久子
ゆいまある	和久井美奈	駿豆学園	勝呂和也
さつき学園	大木 隆	かがやき	松浦翔平
あかいし学園	有馬令子	三方原スクエア	鈴木真里
菊川寮	伊藤優子	かすが	水島さくら
ケアセンターさざんか	甲賀洋介	フレンズ	木村恵理子
赤石寮	石川大祐	インヌマエル	吾妻浩子
わらしなロッジ	岩崎裕司	わらしな学園	竹田直幸
支援センターわかぎ	観峯圭吾	碧の園	市川 駿
いずみ	横田 豊	富士市社会福祉協議会	田中理香
ひかりの丘	酒井繭子	障害サービス室	
<b>【音楽療法講座】</b>			
悠雲寮	渡邊和美	あきは寮	野田 繁
駿豆学園	朝香由起子	わらしな学園	花村文子
伊豆つくし学園	大野美保子	あかいし学園	村松 茜
碧の園	本多弥華	沼津のぞみの園	兼森舞紀
駿東学園	寺内千尋	沼津のぞみの園	中野晶子
支援センターわかぎ	鈴木美子	ケアセンターマーガレット	広瀬美智子
あさぎり	西尾優華	トミーズ	望月美規
ウェルくさぶえ	新村早紀	ケアセンターかたくりの花	椎野佳子
<b>【障がい者スポーツ講座】</b>			
有永寮	田中 諭	そるとぼっと	鈴木和子
赤石寮	谷 佳美子	ゆいまある	後藤和樹
富士本学園	石田朋志	さつき学園	海老名勇人
浜松こども園	小笹和典	まつかさ	藤原建吾
碧の園	八木陽一	あかいし学園	岩崎剛毅
駿豆学園	高野 慶	ミルクィウエイ	杉村はる菜
きぼうの里	杉本尊史		
<b>【カウンセリング講座】</b>			
あまぎ学園	杉澤あゆみ	袋井学園	北條勇斗
静岡市清水うなばら学園	齊藤貴美子	総合地域サポートセンターひまわり	小池利絵子
鷹身工芸社	福島智子	駿東学園	土屋智美
鷹身工芸社	秋山千晴	富士和光学園	望月俊浩
オランチ	松井 幸	吉原つくし	高橋優介
竹の子	渡邊千鶴	吉原つくし	村山良弘
ひめな	佐藤直美	吉原つくし	望月由紀
あきは寮	松浦雅人	ワークスつばさ	浅井清和
駿豆学園	大木章敬	さつき学園	芦川義治
ドルチェ	松本広恵	草笛共同作業所	小泉亮太郎
アフターセンターくさぶえ	渡辺廣子	おおふじ学園	渡部真由美
コンパス北斗	林 俊尚	コンパス北斗	杉本春奈
のぞみの家	大石美也子	わらしな学園	間瀬宏美
ワークスうしぶせ	伊倉 巧	みはらしの丘	野田知里

## 【医療・看護講座】

コミュート浮島	増田由加里	伊豆つくし学園	本多美津子
駿東学園	金子健嗣	富士和光学園	鈴木理紗
オランチ	長尾あゆみ	鷹身工芸社	勝又 良
吉原つくし	木村千晴	鷹身工芸社	本多香織
竹の子	堂地幸子	鷹身工芸社	木ノ内優子
三方原スクエア	竹田知弘	ひめな	鈴木和子
三方原スクエア	富田美香	ひめな	十倍香織
吉原つくし	永川明代	やまばと希望寮	大川美樹子
吉原つくし	本多清美	あきは寮	都竹敬子
マルカート	秋田三津代	あきは寮	中山須美子
恵松学園	野原万起子	静岡市清水うなばら学園	湯浅愛子
まつぼっくり	山本領香	ワークスつばさ	鈴木千晶
ゆいまある	佐藤 潤	駿豆学園	青木あけみ
望未園	小林 誠	さつき学園	前田尚志
あかいし学園	佐藤京子	あいあい学園	原田真希子
草笛共同作業所	平川侑香	ケアセンターさざんか	鈴木 豊
有永寮	竹内星那	沼津のぞみの里	佐藤 淳
いずみ	大庭裕介	沼津のぞみの里	加藤真弓
わらしなロッジ	野沢万里奈	わらしな学園	金指千恵美
沼津のぞみの園	田代千秋	碧の園	野村早苗
あにまあと	金原章子	みはらしの丘	鈴木楓菜
緑ヶ丘学園	匂坂和馬	富士市社会福祉協議会 障害サービス室	松田敏子

## 《 編集後記 》

今年もまた自然災害の多い年となってしまいました。地震、集中豪雨、災害級の酷暑と、次から次で、何がいつのことだったかもわからなくなるほどです。静岡県でも台風 24 号の被害で、特に西部地域を中心に大規模な停電が起こり、ご苦労された施設も多かったと思います。来年こそは、平穏な 1 年間であることを願い、しずおか愛護 No. 34 をお届けします。 良いお年をお迎え下さい。

(広報担当 三田充彦)